

会 議 等 結 果 報 告 書

会議区分	<div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">会 議</div> ・ 打合せ ・ 協 議	文書番号	—
		決裁期日	平成27年12月2日
名 称	平成27年度第4回未来創生委員会		
日 時	平成27年11月13日 午前 ・午後 9時30分～12時00分		
場 所	安平町役場早来庁舎（第2会議室）		
出席者	安 平 町 （企画財政課）木林課長、岡主幹、木村主幹、高橋主査 北 海 道 胆振総合振興局地域政策部戦略策定支援担当部長 高見芳彦氏（随行1名） 委 員 未来創生委員会委員9名（白川委員、大館委員、添谷委員、川崎委員、福田委員の5名が欠席） 外部有識者 北海学園大学経営学部教授 菅原浩信 F P オフィス・サポート代表 星洋子 2名		
会議概要	<p>1 開会（進行：木林企画財政課長） ◇半数以上の参加により委員会が成立していることを宣言</p> <p>2 委員長挨拶 ◇過去2回の委員会では、2つのグループに分かれて人口減少対策に対するアイデアをいただいた。事務局のまとめ資料があったが、専門的なご意見とともに、町民目線の具体的な提案もあり、同時に行われてきた行政側の検討とともに、最終的に総合戦略の素案に盛り込まれ、先月事務局から送付されている。 ◇非常にボリュームがあり、内容確認が大変であったと思われるが、この素案に対して多くの皆様からご意見があったと伺っており、その内容を確認していきたい。 ◇また、事務局からは、この「まち・ひと・しごと総合戦略」の上位計画となる、平成29年度からの10年間の長期総合計画の策定方針の決定と、これに基づく今後の策定作業について説明を受けることとしている。 ◇会議の進行について皆様にご協力いただきながら円滑に進めたい。</p> <p>● 北海道胆振総合振興局情報提供（戦略支援担当部：高見部長） → 10月末を目途に戦略策定を求められてきたところであるが、全国・全道ともに結果として4割程度の策定にとどまり、他の自治体はじっくりと検討している。 → 国の交付金（上乗せ交付金）として道内で先駆的な事業が実践されており、安平町も交付金の交付内示があった。</p> <p>3 議事（議事進行：小林委員長） （1）町民まちづくりアンケートの速報報告について（説明：企画財政課 岡） ◇ 9月に実施したアンケート調査のうち、人口減少対策部分に係るものを抜粋 ◇ 前段で、調査目的、調査方法、回収結果等を説明 ◇ <u>自由記載に書かれている内容については、総合戦略の「施策6分野」に分け、今後の事業検討に活用していきたいと考えていることを説明（重要）</u></p>		

<質疑>

<星外部有識者>

- ・アンケートの回答者は世帯主の方が多いのか？
- ・記入した方の年齢ではなく、世帯主の年齢で書いている場合もあるのか？

(企画財政課：岡)

- ・世帯主の回答を希望と記載している。よって配偶者が世帯主に代わって記載している例もあると思う。
- ・アンケート集計においては、年齢別や性別に分けて（クロスして）集計する必要があるが全体集計中であり、単純集計のみを速報値としていることをご了承いただきたい。

<田中委員>

- ・回答率17.9%というのは予想より多いのか少ないのか？

(企画財政課：岡)

- ・こういった行政アンケートの回答率は低いことを予想していたところ（予想どおりのイメージ）

<佐々木委員>

- ・このアンケートの自由記載には、様々な財産が入っている。町民がせっかく記載したものを今後どのように活用するのが問われる。
- ・この結果をどうするのか、そのイメージを教えてください。

(企画財政課：岡)

- ・このアンケートを行った最大の理由は、最終的には次期総合計画の策定の基礎材料とすることを想定し、加えて現在策定中の総合戦略においても活用するイメージ。

<佐々木委員>

- ・全体的なイメージは分かるが、これら意見等をどうやって分析し、どうやって町民に還元しようとしているのか。それがなければ「ただアンケートを実施した」ということだけで終わるような気がするが。

(企画財政課：岡)

- ・結果については、町の広報を通じてお知らせする予定（広報紙面の都合や、誹謗中傷などの部分もあるため、内容検証は必要であるが）
- ・結果の分析は、統計的・科学的に行う必要があり、手法やまとめ方も含めて十分に検討させていただきたい。（年度中に結果報告予定）

<菅原外部有識者>

- ・回答者は高齢者が多く、若い世代の回答は少ないという結果であるが、これは実際の人口構造と相当な乖離があり、結果として速報で提出されているものは65歳以上の方の意向が強く出ている。
- ・これがだめということではないが、高齢者の回答が多すぎるという実情とのズレを補う必要があると思う。
- ・具体的には若い世代の方の意見を、別の機会で補う工夫が必要であると認識するが考えはあるか。

(企画財政課：岡)

- ・この種のアンケートのたびに、当町では課題となっているところ。
- ・若い世代の方からの意見を導き出すことができずにいる。
- ・来年2月に「町民ワークショップ」というものを開催する予定であるが、その参加対象に若い方をどのように入れていくかを検討していきたい。
- ・また、菅原教授からご提案があったが、当町出身者からの意見聴取も検討していきたい。

<西村副委員長>

- ・今の関連で、若い人からの意見を聴取するという意味で、先日むかわ町では地元高校の生徒を対象としたアンケートを実施している。
- ・誘致企業や商店街の若い世代の方などに絞ってアンケートを実施してみたいかがであろうか。
- ・全町で行うとこのような偏りが出てしまう。菅原教授がおっしゃったように、この結果だと30代—40代の潜在的意見がないがしろになる。
- ・若い方の回答が多くなる手法をぜひとも考えていただきたい。

<佐々木委員>

- ・このアンケートでもやはりクロス集計などの手法で、世代別の結果分析が重要であると感じる。

<企画財政課：岡>

- ・西村副委員長から提案あった、高校生に対するアンケートについては、菅原教授からも提案があったところである。
- ・また、新たな視点として町内企業で働く若い世代の方を対象としたアンケートの実施という提案もあったことから、誘致企業会の事務局長である島田委員にもご協力をお願いしたい。
- ・加えて、当町に周辺都市から通勤されてきている方をいかに定住させるかという考えがあり、担当課の方でも、来年企業に対する調査を行うという考えもある。いずれにしても島田委員にはご協力いただきたい。

<星外部有識者>

- ・前段で送付された総合戦略の素案の巻末に掲載あった、転入・転出者アンケートは回答率も高く、町に対する前向きな意見も見られた。このアンケートの調査方法や目的を教えてください。

<企画財政課：岡>

- ・このアンケートの回答率が高い理由は、転入、転出される方に対して役場窓口で直接回答を促したことによるもの。
- ・「なぜ安平町に転入するのか」「なぜ安平町から転出するのか」という理由を記載するもので、千歳市では通年で実施しているが、期間を区切って実施したものである。

(2) 安平町まち・ひと・しごと創生総合戦略(素案)に対する意見について(説明:企画財政課 岡)

- ◇9月2日、9月30日に委員・外部有識者によるグループワークを行い、そこで協議された内容の「ことば」をエッセンスとして本文に盛り込んで10月19日に「素案」として送付したもの。
- ◇11月6日までという勝手な期限を設定したにもかかわらず、委員・外部有識者の皆様に多くの意見をいただいた。
- ◇本日資料配付している「安平町まち・ひと・しごと創生総合戦略(素案)に対する意見について(具体的意見)」という資料に意見をまとめ、対応内容を掲載している。こちらに基づき協議を進めたい。
- ◇皆様の意見には、一つの項目に対して正反対の意見が出ているものもある。この対応については、計画本文にどのように反映させるべきかを検討しなければならないことも理解いただきたい。
- ◇委員・外部有識者の皆さんには、今年8月に一度「素案」を送付。イメージをもってもらった意味でラフ案として送ったが、今回の素案とは作り方等が異なる。

「テーマ設定をしないこと」「具体的施策例が細かすぎた部分」等の修正を説明

◇いただいた意見の全てを盛り込むことが委員・外部有識者の皆さんの納得を得られることとなるが、具体性、実現可能性、財政面などの問題もあり、意見の全てが施策として反映できないものもあることを理解いただきたい。

<資料「安平町まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）に対する意見について（具体的意見）」を基に進行>

【資料1/12ページの内容について】

<菅原外部有識者>

- ・ダイジェスト版という記載があるがイメージを教えてください。（体系図に手を加えたようなもののイメージか）

（企画財政課：岡）

- ・A3版の裏表を使い、総合戦略の全体内容を表現するイメージ

<田中委員：P35以降の内容全般についての項目>

- ・「営業促進」と意見したのは、移住定住希望者にランダムに声をかけるのではなく、ポイントに絞った営業ができないかということを提案している。

（企画財政課：岡）

- ・現状として、町職員は首都圏で開催される移住フェアに参加するという方式をとり、田中委員もそのフェアで当町に移住された。
- ・田中委員は、この待つ姿勢ではなく、こちらから出向く姿勢が必要との意見。
- ・町職員はそのやり方がわからないのが現状。課題とさせていただきたい。

【資料2/12ページの内容について】

◇重要業績評価指標：KPIは全体的な見直しを行うことを前段で説明

<井坂委員>

- ・過去の実績なども掲載してよいのではないか（起業相談件数など）

（企画財政課：岡）

- ・意見として伺う。*数値だけが羅列される状況を避け、現状値の掲載とした。

<菅原外部有識者>

- ・素案中「子育て」に関する施策は多くありながら、KPIの設定は「不安度」など2つの目標しかない。これはおかしい。もっと別の視点で様々な目標数値があるはず。
*このほか、具体的施策例に対応していないものや、何故その数値目標としているのかが分からないものが多数あることへのご意見あり。

（企画財政課：岡）

- ・検討させていただくという言葉しか言えない。これまで数値目標を設定して事業を進めるという習慣がなく、慌てての対応となっている。菅原教授以外にも多くの意見があり、このKPIの設定については、全体的な見直しを行わせていただく。
- ・胆振総合振興局の高見部長に参考意見を伺いたい。

（胆振総合振興局：高見部長）

- ・基本的には説明ができるかということが焦点である。どういうイメージでそのKPIを設定しているのかということ。
- ・他の自治体では、住民アンケートの統計数値だけをKPIにしているところもあれば、有識者意見から「孤独死0」を掲げた自治体もあった。
- ・設定内容を総合戦略に入れ込むことは困難であることから、別紙としてまとめ、数値の考え方を示す必要はあろうかと思う。
- ・KPIは自治体によって様々であることは確か。

*別途庁舎内にてKPIの見直しを行いました。

【資料3/12、4/12、5/12ページ（一部）の内容について】

追加の意見なし

【資料5/12、6/12ページの内容のうち、素案のP35-P36「雇用」について】

<井坂委員>

- ・社台ファーム、ノーザンファーム、追分ファームと連携した地域PRについて、これまでも地域PR活動で協力いただいているとされているが、具体的な内容を教えていただきたい。

(企画財政課：岡)

- ・経済動物という制約があるものの、牧場風景やPR活動に馬の写真を活用させていただいている。

<井坂委員>

- ・そういうことではなく、世界的に有名な経営者の方に直接安平町のPRを協力いただけないかということ意見を記載した。

(企画財政課：岡)

- ・理解不足であった。ご意見として頂戴する。

<菅原外部有識者>

- ・農業に関連する企業の支援を意見として提出したが、対して、ホクレン・畜産公社などとの連携の仕組みづくりを検討とある。
- ・具体的に何をイメージしているのか。

(企画財政課：岡)

- ・具体的な話ではないことから、仕組みづくりとしたもの。

<菅原外部有識者>

- ・例えば個々の農家と組んだとしても、ホクレンなど商社や大企業とコラボすることは難しいのではないか。
- ・であれば、農家と食品開発・産品開発を模索するベンチャーを繋ぎ合わせる仕組みの方が早道だと思える。

(企画財政課：岡)

- ・今後の施策検討で参考とさせていただきたい。

【資料6/12ページの内容のうち、素案のP37の「子育て」について】

追加の意見なし

【資料7/12ページのうち、素案のP39-P40の「教育」について】

<田中委員>

- ・追分高等学校の特色ある教育について意見したが、テレビやインターネットを通じて得た地域に根ざした教育に感心し、是非安平町でも実現できないかと感じたもの。(郷土学の研究などを通じて、まちづくりにまで発展させた例について紹介)

(企画財政課：岡)

- ・追分高等学校の生徒の地域企業での就職については、誘致企業会と協力した対応を行っている。島田委員の方から補足があればお願いしたい。

<島田委員>

- ・追分高等学校の生徒さんを町内企業は雇用したいという考えはあっても、生徒自身が留まってくれない現状がある。
- ・田中委員の紹介事例のように、地域への愛着を高める活動を行うことで、地域に留まる学生も増えるのではないかと期待する。

<田中委員>

- ・紹介事例は、本当に成功例であり、いい循環ができています。

(企画財政課：岡)

- ・こうした積極的な意見もありながら、逆に意見として、行政側の期待を学校側に押し付けてはいけません。「理想」と「現実」をきちんと整理し、学校と協議をするべきという意見もある。
- ・安平町としても、追分高等学校の存続運動を長年進める中で、支援策の協議では、道立学校（全日制・普通科）という位置付けが大きな壁である。
- ・菅原教授からも、三笠市や音威子府村の例を参考にできないかという意見があり、ただ高校があるというだけでは子育て世代の転入には結びつかないというご指摘もあるが、現状の追分高等学校生徒の学力面の問題などもあり、皆様の期待・アイデアをすぐに実践できる状況にはないのではないかと、180度異なる意見もあるということも理解いただければと思う。

<田中委員>

- ・せっかく協議会のような組織もあるようであり、特色ある教育を目指していただければと思う。

【資料8/12、9/12、10/12ページ、素案のP41-P44の「暮らし」について】

<山口委員>

- ・以前より私は提案としてターゲットを絞り込むべきではないかと申し上げているが、そのターゲットとして50代のシニア世代を上げ、これらの方が理想の「終末」に向けどのような思考を持っているかを想像し、対応した施策を打つべきではないかと考えたところ。
- ・シニア世代は子どもが離れて、終末のあり方というものを考えるものであり、終の棲家として移住した場合、最終的に「墓」というものを意識する。
- ・墓というイメージをなくし、メモリアルパーク化することで、シニア世代の取り込みを期待したもの。

(企画財政課：岡)

- ・いただいたご提案と、これまで議論してきたターゲットのマッチングの観点もあり、また、事業費面での検討も必要であるため、具体的な内容を戦略に盛り込むことは現時点では難しいため、今後検討としたいところ。

<山口委員>

- ・全体的な部分として、この戦略では基本的な考え方には、「効果検証を伴わないバラマキを反省する」とある。
- ・今の戦略（案）は、この反省をせず、総花的に感じており、何がポイントかわからない。
- ・また、戦略そのものも、文字が多く見にくい。

(企画財政課：岡)

- ・計画のレイアウトの話があったが、これを抜本的に変更するという事は難しい。後で山口委員のイメージを教えてください。

*終了後に山口委員とは話をさせていただいた。山口委員のイメージは、「人口を増やすために必要となる「新たな施策」のみが掲載された戦略を考えるべきというイメージ。」これに対して、当方からは「この総合戦略で記載される事業に対して国は交付金を交付するものであり、理想は理解しつつ、既存で行っている事業についても掲載しなければならず、結果としてくどい書きぶりとなっている」と説明させていただいた。

【資料10/12、11/12ページ、素案のP45-P47の「回遊・交流」について】

<星外部有識者>

- ・nittan戦略会議について教えていただきたい。

(企画財政課：岡)

- ・新幹線開業を契機として、函館から胆振へ観光客を取り込もうとするPR活動を胆振・日高の全市町共同で行っているもの。
*室蘭と森町間の噴火湾クルージングなどの例を紹介

【資料11/12ページ、素案のP48-P49の「情報提供」について】

<菅原外部有識者>

- ・「ふるさと納税」を安平町ファンとして登録する制度の強化とあるが、実際にそのような制度があるのか。

(企画財政課：岡)

- ・申請された方に特別住民登録する制度であるが、その方を更に取り込んで何かをしていくという形にはなっていない。
- ・東川町のように「株主」として捉え、登録者を町に招き入れて町民と交流させるというような流れになることが理想である。

<菅原外部有識者>

- ・せっかく、ふるさと納税した方にアクションしないのはもったいない。
- ・また、シティプロモーション概念図があるが、ステップとステップの間にもっとアクションがあるような気がする。

(企画財政課：岡)

- ・情報交流から定住までの間がつかないという意見はいただいている。
*各ステップの間にも細かなステップがあることを図に注記することとした。

=まとめ=

- 今回いただいた意見は ①具体的な施策例として反映できるもの ②計画本文の文言として残せるもの ③更なる検討が必要で本文に掲載できないもの の3つに分けることができる。
- このうち、①と②については計画反映されるため納得いただけると思うが、③については計画に残らないため「私の意見はどうなったのか」と不満が残る。
- 内部で協議を行い、③については、総合戦略の資料編に掲載し、次期検討の題材となるよう、忘れられないよう配慮したい。 → 確認いただき了承をいただいた。

(3) 第2次安平町総合計画策定に係る町民参画手法について

○時間が超過したため、(3)については省略とした。

なお、10月28日付けで「第2次安平町総合計画策定アドバイザー」として、菅原外部有識者を別途委嘱したことから、自己紹介をいただいた。

<菅原様による策定アドバイザーとしての自己紹介内容>

- ・大役を安易に引き受けた。
- ・前職で他の自治体の総合計画策定の手伝いをしたこともあり、総合計画がどのようなものかのイメージは持っている。
- ・総合計画はその町のランドデザインを描くもので大変重要であり、町民の皆さんが納得するものでなければならぬと思っている。
- ・そのためには、「役場が策定したものに意見する」ということだけではなく、町民に策定段階から係わりを持ってもらうことが重要。
- ・そして、議論を通じ、町民意見を最大限取り込むことが必要。
- ・そのような視点と、併せてまちづくりでは「若者」「ばか者」「よそもの」の3要素が重要と言われているが、自分は「よそ者」であることから、そうした視点でアドバイザーとして関わっていきたい。

委員長閉会挨拶

◇次回は1月を予定している。本日積み残しとなった総合計画の関係も含めて議論したい。本日は長時間大変お疲れさまでした。

終了 11:55